

市長行政報告

本日、3月市議会定例会を招集いたしましたところ、皆様方にはご多用のところをご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

この度の「令和6年能登半島地震」により、亡くなられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様方に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

この災害を受けまして、本市といたしましては、被災された方々を支援するため、1月4日から本庁舎や各支局において義援金の募金箱を設置したほか、被災した自治体と連絡をとりながら、1月5日、市職員2名が現地に向けて出発し、翌日には飲料水、アルファ化米、簡易トイレなどの救援物資を届けたところであります。また、1月27日から31日にかけては、上水道課の職員2名が給水車により石川県穴水町で給水活動を行ったほか、1月28日から2月3日にかけては、富山県氷見市に岡山県の支援チームの一員として本市から職員2名を派遣し、罹災証明書交付事務の支援も行っております。

そのほか、市職員も被災地の一日も早い復旧・復興を願い、募金を行いました。

今後につきましても、人材の派遣、物資など、被災地から求められる支援を、県や県内の市町村、市長会などと連携しながら行ってまいります。

それでは、前回市議会定例会以降の取組等について、報告をさせていただきます。

まず、「産業・経済」についてであります。

農業振興につきましては、昨年の夏から秋にかけての猛暑などにより、全国的に農作物の生育に影響を及ぼした年となりました。本市も同様に影響を受けましたが、「新見産ぶどう」の販売額につきましては、15億2千万円を超え、過去最高となりました。

本市が経費の一部を支援し、JA晴れの国岡山が2月末の完成に向け整備を進めているリンドウ選花場につきましては、選花機の増台や予冷設備の導入などにより、課題でありました選花速度が大幅に改善し、来年度の出荷から作業の効率化と高品質化が図られることとなります。同じく経費の一部を支援するトマトの選果場につきましても、3月末の完成に向け選果ラインの更新を行っており、スムーズな選果により安定した出荷が可能となります。

今後につきましても、引き続き、園芸品目全般においてブランド力の強化や生産振興に取り組んでまいります。

また、畜産振興につきましては、本年度創設しました「千屋牛生産基盤拡大事業補助金」を活用し、2つの事業者が牛舎の整備に取り組みました。これにより生産基盤の拡大が図られ、着実に千屋牛の増頭につながっていくものと考えております。

「新見市オリジナルICOCA」につきましては、1月末現在、市民の皆様の87%がカードを保有されております。

市内加盟店103店舗において、これまで付与した「にーみんポイント」の81%、約3億6千4百万円分のポイントが利用され、電子マネーの利用も、約2億5千6百万円となっており、市内経済の活性化が図られているものと考えております。

なお、冬季におけるエネルギーや食料品価格等の物価高騰対策として、12月25日、カードを保有されている市民の皆様に、3,000円分のポイントを付与したところであります。

さらに、1月中をチャージ対象期間として、本年度3回目となる現金チャージキャンペーンを実施した結果、8,716人の方が参加され、約1億2千2百万円がチャージされております。これに対する約2千3百万円分のポイントは、2月15日に付与しております。

また、本年度、転入や出生により新たに市民になられた方に3,000円分のポイントを付与する「ウェルカムにーみんポイント」につきましては、1月末現在で298件、89万4千円分のポイントを付与しております。

引き続き、加盟店を増やししながら、市内経済の好循環に向けて取り組んでまいります。

次に、「健康・福祉」についてであります。

健康増進施設「げんき広場にいみ」につきましては、施設の老朽化による大規模改修工事が完了し、1月5日から全館営業しております。屋根、スタジオ及び浴室等の改修を行っており、これにより多くの世代の皆様が安全に安心して利用できる施設としてリニューアルできたものと考えております。

物価高騰重点支援給付金につきましては、1月末現在で、「住民税非課税世帯」2,546世帯に、1世帯あたり7万円の給付を完了しております。

なお、「令和5年度住民税均等割のみの世帯」に対する1世帯あたり10万円の給付や、住民税非課税世帯及び均等割のみの世帯に属するこども1人あたりに5万円を給付する「こども加算」につきましては、システム改修などの準備が整い次第、該当世帯へお知らせいたします。

次に、「教育・文化・スポーツ」についてであります。

学校教育につきましては、1月18日、新見南中学校が岡山県学校安全推進学校として表彰されました。

同校は、平成30年の西日本豪雨災害及び令和元年の市内集中豪雨災害をきっかけに、「災害に備え、主体的に行動できる生徒を育てる防災教育」を推進しており、地域の自主防災組織や関係機関の協力を得ながら防災教育を実施したことが高く評価されたものであります。

今後は、同校の取組の成果を市内の小中学校に広げ、地域ぐるみで防災意識を高められるよう取り組んでまいります。

中高連携につきましては、1月26日、新見高校南校地に中学生・高校生の代表者44名が集まり、まちづくり会議を開催しました。普通科の2年生による市議会への陳情のうち、代表選考会に進出した3つのテーマを元に、中学生と高校生と一緒に議論を深めました。

引き続き、連携の取組を強化し、まちづくりに反映してまいりたいと考えております。

次に、「都市基盤・交通」についてであります。

公共交通につきましては、市街地循環バス「ら・くるっと」の利便性向上のため、交通系ICカードの利用環境を整備し、2月13日から料金決済を開始いたしました。当日私も乗車し、新見市オリジナルICOCAによる決済を体験するとともに、新見駅において、「に一みん」及びICOCAのマスコットキャラクター「カモノハシのイコちゃん」と一緒にICOCA利用のPRを行いました。多くの市民の皆様が所有するこのカードを、地域公共交通の利用促進にしっかりと役立ててまいりたいと考えております。

鉄道の利用促進につきましては、多くの応募をいただいた市内3路線の魅力を伝える写真やイラストの中から厳選した作品により、卓上カレンダーを作成いたしました。本庁窓口や観光協会で配布したほか、1月21日に初めて来新した新型車両「Urara（ウララ）」の歓迎イベントなどでもPRしております。

また、公募型鉄道利用促進事業で採択した「鉄旅の魅力発信プロジェクト」による写真展が、1月31日から2月7日までの期間、倉敷美観地区内の倉敷物語館において開催され、また市内でも、2月10日から2月18日までの期間、まなび広場にいみのギャラリーにおいて開催されました。鉄道を使った旅行並びに本市の魅力が市内外問わず広く伝えられたものと考えております。

JR芸備線の再構築協議につきましては、1月12日付けで国土交通省中国運輸局

から「備中神代駅－備後庄原駅」間を特定区間とする再構築協議会の設置等について通知がありました。第1回目の協議会は3月26日に広島市において開催を予定されており、本市からは副市長等が出席することとしております。

新見駅周辺まちづくりにつきましては、官民の幅広い関係者が参画する組織「新見駅周辺みらいプロジェクト」の第3回定例会を1月30日に開催し、同プロジェクトの行動計画となる「新見駅周辺みらいビジョン」の策定に向けた協議を行いました。今後、このビジョンに基づき、駅前周辺のにぎわい創出を図り、持続可能なまちづくりを推進することとしております。

次に、「環境」についてであります。

ごみの減量化につきましては、各家庭にある再利用可能な物品をごみとして処分せずリユースを促進するため、本日、株式会社ジモティーと連携協定を締結いたします。同社のサイトを利用することにより、市民の皆様がインターネット上で引き取り先を見つけることが可能となります。

今後につきましても、リユースやリサイクルを積極的に実施しながらごみの減量化を図り、脱炭素社会の実現につなげてまいります。

次に、「交流・コミュニティ」についてであります。

多文化共生社会の構築につきましては、本市で生活する外国人の方を対象に、本年1月から日本語教室を開講しております。

これは、近年増加傾向にある外国人市民に対して、日本語や日本の文化を学んでもらうことで、地域の一員として安心して生活できる環境づくりを目指して行っているものであります。

教室では、新見公立大学全世代型地域包括ケア研究センターと協力し、週2回程度、市内のボランティア講師や新見公立大学生がマンツーマンでレッスンを行っております。

最後に、「広聴・広報」についてであります。

広聴・広報につきましては、12月16日、市内小学生8名を市長室に招待し、「ようこそ市長室」を開催いたしました。「住み続けたいまちづくり」をテーマに、教育長も交えて一緒に意見交換を行いました。本市の魅力発信などにつきまして、将来を担う子どもたちから、柔軟な発想での意見やアイデアなどもあり、大変有意義な懇談会となりました。

最後に、今定例会から、本議場傍聴席の入り口前に、お子様連れの方も安心して議会を傍聴できる親子傍聴室を新たに整備いたしました。是非、傍聴にお越しください。

以上、市政運営の状況につきまして主なものをご報告いたしましたが、引き続き市政の推進にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。